

2024年度事業報告書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

学校法人 大阪音楽大学

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正 4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2016年（平成28年）	大学音楽学部音楽学科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 附属音楽院さくら夙川校開設
2018年（平成30年）	大学音楽学部音楽学科クラシックギター専攻をギター・マンドリン専攻に改称 短期大学部音楽科クラシックギター・コースをギター・マンドリン・コースに改称
2020年（令和2年）	短期大学部音楽科作曲コースと電子オルガン・コースを統合し、作曲デザイン・コースを開設 短期大学部音楽科ポピュラー・コースを改組し、ヴォーカルパフォーマンス・コース、ポピュラーインストゥルメント・コースを開設 附属音楽院さくら夙川校閉校
2021年（令和3年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科にヴォーカルパフォーマンス専攻、ポピュラーインストゥルメント専攻を開設
2022年（令和4年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価受審の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定 大阪音楽大学音楽学部音楽学科にミュージックビジネス専攻を開設
2023年（令和5年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科ヴォーカルパフォーマンス専攻とポピュラーインストゥルメント専攻改組し、ポピュラーエンターテインメント専攻を開設 短期大学部音楽科ヴォーカルパフォーマンス・コースとポピュラーインストゥルメント・コースを改組し、ポピュラーエンターテインメント・コースを開設
2024年（令和6年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科パイプオルガン専攻を募集停止 大学音楽学部音楽学科のミュージックコミュニケーションを地域創生ミュージックマネジメント専攻に改称 大学音楽学部音楽学科電子オルガン専攻を募集停止 短期大学部音楽科に音響照明コースを開設

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数10～15人 理事の現員数10人

役職名	氏名	執務	理事就任(退任)年月日	主な現職・前職等
理事長	北野 徹	常時執務	2022 年 7 月 1 日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
常任理事	高 昌帥	常時執務	2012 年 10 月 1 日	大阪音楽大学副学長
常任理事	福井 慎吾	常時執務	2016 年 5 月 29 日	(大阪音楽大学前事務局長)
常任理事	森岡 周平	常時執務	2023 年 6 月 1 日	大阪音楽大学事務局長
常任理事	森本 友紀	常時執務	2024 年 4 月 1 日	大阪音楽大学学長
理事	岡野 幸義*	非常勤	2012 年 10 月 1 日	(公財)太平洋人材交流センター理事長
理事	熊谷 美紀	常時執務	2022 年 4 月 1 日	大阪音楽大学副学長
理事	角 和夫*	非常勤	2019 年 12 月 1 日	阪急電鉄(株)代表取締役会長
理事	十川 輝明*	非常勤	2010 年 4 月 1 日	(住友生命社会福祉事業団元常務理事)
理事	永井 譲*	非常勤	1982 年 6 月 29 日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授

監 事

監事定数 2人

監事の現員数2人

氏名	執務	就任年月日	主な現職・前職等
水漣 征矢雄*	非常勤	2018 年 6 月 30 日	(学校法人大阪音楽大学元常任理事・大阪音楽大学元教授)
青山 成夫*	非常勤	2021 年 7 月 1 日	((公財)住友生命健康財団元常務理事)

評議員

評議員定数 21～31人

評議員の現員数22人

氏名	選任条項	就任(退任)年月日	主な現職・前職等(在任時)
石橋 栄実	法人職員	2020 年 5 月 29 日	大阪音楽大学教授・付属音楽院長
井上 建夫	学識経験者	2018 年 6 月 30 日	公益財団法人守山市文化体育振興事業団副理事長
江良 成人	法人職員	2022 年 6 月 30 日	大阪音楽大学調査役／前連携・演奏事務部門長
大澤 弘之	卒業者	2022 年 12 月 22 日	大阪成蹊大学教授、京都教育大学名誉教授
大田 美佐子	学識経験者	2022 年 6 月 1 日	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授
加藤 理恵	法人職員	2010 年 6 月 30 日	大阪音楽大学付属音楽幼稚園園長
北野 徹	卒業者	2010 年 6 月 30 日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
久保 洋子	法人職員	2022 年 6 月 25 日	大阪音楽大学教授
高 昌帥	法人職員	2021 年 9 月 20 日	大阪音楽大学短期大学部副学長
児玉 祐子	卒業者	2021 年 4 月 1 日	公益財団法人関西二期会理事
駒井 肇	法人職員	2020 年 5 月 31 日	大阪音楽大学短期大学部教授
崎元 利樹	学識経験者	2022 年 6 月 30 日	公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会理事長
芝 道雄	学識経験者	2018 年 6 月 30 日	ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室シニアスキルスペシャリスト

下村 義和	学識経験者	2020年1月30日	元豊中市消防局次長 豊中市消防局再任用職員
田辺 恭久	学識経験者	2020年4月1日	住友生命保険相互会社顧問
鳥居 知行	法人職員	2022年5月30日	大阪音楽大学教授
林 紀夫	学識経験者	2022年6月30日	関西労災病院病院長、大阪大学名誉教授
本郷 卓	卒業者	2022年6月30日	滝川第二中学校・高等学校校長
松尾 徹	学識経験者	2013年12月1日	非破壊検査株式会社特別顧問
水谷 雅男	卒業者	2018年6月30日	大阪音楽大学同窓会〈幸楽会〉副会長
森岡 周平	法人職員	2023年6月1日	大阪音楽大学事務局長
森本 友紀	法人職員	2022年6月30日	大阪音楽大学教授

役員賠償責任保険契約の概要

- ・被保険者：役員（理事・監事）及び評議員
- ・補償内容：役員及び評議員（被保険者）の行為に起因して、被保険者に対して損害賠償請求がなされた場合に、被保険者が負担する法律上の賠償金等を補償する。
- ・保険期間：1年間

責任限定契約の内容の概要

- ・私立学校法第44条の5が準用する一般社団・財団法人法第115条に定める及び本法人寄附行為に基づき、理事4人*及び監事2人*との間で、私立学校法第44条の2第1項の最低責任限度額をもって責任の上限とする旨の責任限定契約を締結している。

学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	森本 友紀
大阪音楽大学短期大学部学長	森本 友紀
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	加藤 理恵

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2024年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	入学者数	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽学科	220人	199人	10人	900人	882人	0.98
計	220人	199人	10人	900人	882人	0.98

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
作曲専攻	1人	0人	0人	0.00
声楽専攻	5人	8人	8人	1.6
器楽専攻	14人	15人	15人	1.07
計	20人	23人	23人	1.15

●大阪音楽大学 大学院

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽研究科	作曲専攻	2人	2人	4人	3人	0.75
	声楽専攻	4人	9人	8人	15人	1.88
	器楽専攻	7人	9人	14人	20人	1.43
計		13人	20人	26人	38人	1.46

●大阪音楽大学短期大学部

学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽科	100人	105人	200人	221人	1.1
計	100人	105人	200人	221人	1.1

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
音楽専攻	15人	12人	12人	0.8

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学年	定員	在園児数
3歳児3学級	105人	56人
4歳児3学級	105人	77人
5歳児3学級	105人	77人
計	315人	210人

Ⅱ 事業の概要

2024年度、大阪音楽大学および大阪音楽短期大学部は、創立者が建学の精神に込めた志の実現を目指し、時代を革新する創造的な音楽の発信者、ならびに音楽文化の担い手となる良識ある人材の育成を教育目標として、経営、教育、連携の各分野において着実に歩みを進めた。

本法人は、「中期事業計画（2021年度～2025年度）」に基づき、以下の重点推進項目を踏まえ、それぞれの領域において必要な目標を設定し、取り組みを推進している。

1. 新たな成長戦略による収入確保

- － 新時代のニーズに対応した事業運営およびニューノーマル時代の学生募集活動
- 2. 事業の抜本的見直しによる支出削減*
 - － 慣例やしがらみにとらわれることなく、事業の在り方を見直す
- 3. 学修者本位の教育への転換
 - － 時代に即した教育体系・手法の確立と、教育の質・学生サービスの向上
- 4. 次世代を担う人材育成
 - － 本学の発展に寄与する将来を担う教員・職員の育成
- 5. 財務体質の健全化
 - － 教育活動資金収支、資産運用、資金繰りの適正化
- 6. ガバナンス強化と社会に開かれた大学の実現
 - － 各機能の実質化・適正化、危機管理体制の強化、外部連携の推進

2024年度は、新たな理事長および学長が着任し、ガバナンス強化への意識を一層高め、適正かつ適切な学校運営の展開を図るべく、内部質保証体制および内部統制システムの整備を進めた。2025 年 4 月に施行される改正私立学校法への対応として、寄附行為の変更作業をはじめ、関連規程の策定・改定を行い、法人のガバナンス強化を推進した。

教学面においては、専門性の高い音楽教育の提供に加え、社会の多様なニーズに応えるため、広い視野を持った人材の育成を目指している。短期大学部では、新たに音響照明コースを開設し、約 20 名の入学者を迎えた。また、教育の質を保証する体制整備の一環として、内部質保証推進会議を新たに設置し、自己点検・評価の結果を教育改善に活かす仕組みを構築した。

連携事業においては、大学の教育・研究成果を社会に還元することを目的とし、高大連携事業を一層強化することで、高校生の音楽学習の充実および意欲向上に寄与した。さらに、豊中市を中心として演奏活動や公開講座を通じて地域社会との連携を継続し、地域貢献にも努めた。

施設・設備については、特に校舎維持保全のための老朽化対策に関する工事や、ネットワーク環境の経年劣化対策を行った。

財務面では、健全で持続可能な運営の実現を目指し、これまで継続してきた事業の見直しを行い、財務基盤の強化を図った。

本学は今後も、音楽の学びを時代の変化に適応させ、音楽を通じた豊かな人間教育を実現し、社会に貢献する人材を育成することで、魅力ある大学づくりを推進していく。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

大学院音楽研究科の作曲研究室 1 人、音楽学研究室 2 人、声楽研究室 15 人、ピアノ研究室 15 人、管弦打研究室 9 人の計 38 人が在籍している。各研究室による修士リサイタル（1年）、修士演奏（2年）、修士論文の審査と口述試験の結果、作曲 1 人、声楽 5 人、ピアノ 8 人、管弦打 2 人の計 16 人が修了した。

11 月 19 日に大学院定期演奏会をザ・カレッジ・オペラハウスにおいて開催し学生の研究成果である多彩なプログラムによって、本学大学院の質の高さを内外に示すことができた。2025 年度入学選抜については、18 人合格し、17 人が入学した。

<大学>

音楽学部音楽学科に 882 人が在籍し、182 人が（うち11人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞 8 人、優秀賞 15 人、音楽・社会活動賞 1 人を表彰した。ミュージックコミュニケーション専攻を改組し地域創生ミュージックマネジメント専攻を開設した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、2023 年度から全ての授業を対面で実施している。

<大学音楽専攻科>

音楽専攻科に声楽専攻 8 人、器楽専攻 15 人（ピアノ 7 人、パイプオルガン 1 人、管楽器 5 人、弦楽器 1 人、邦楽 1 人）の計 23 人が在籍し、全員が修了した。授業「音楽実践演習」の一環として、学生自らが企画・演出・出演する「オータムコンサート」を LIC はびきの（11 月 9 日）、西宮市フレンテホール（11 月 2 日）の 2 会場で実施し、社会における実践的活動を体験した。LIC はびきのでの公演ではタイトルを「世界の四季」とし、春夏秋冬を象徴する国内外の曲目を多様な楽器編成や声楽アンサンブルで演奏し、変化に富んだプログラム構成の魅力的な公演となった。西宮市フレンテホールでの公演では、観客対象の多くが子どもとその親であったため、親子で楽しめるような良く知られた楽曲を演奏しながら様々な楽器の紹介していた。また、二部構成による演奏のため、子どもが集中を切らすことなく気楽に楽しめる内容となっており、ホール管理者からも高い評価を得ることができた。

<短大>

音楽科には 221 人が在籍し、87 人が（うち 7 人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞 2 人、優秀賞 3 人を表彰した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、2023 年度から全ての授業を対面で実施している。

また 2024 年度より音響照明コースが発足した初年度入学者 22 人。内訳は男 4 人、女 18 人となっている。

<短大専攻科>

短大専攻科には 12 人が入学し、12 人が修了した。在籍するすべての学生が自ら企画・出演する「コンサート・プロデュース」を 7 月 10 日にミレニアムホールで実施した。「春夏秋冬」と銘打ち、見るものを飽きさせない趣向で 1 時間余りのプログラムを構成していた。コンサートの流れも良く、個々の学生についても、前向きな姿勢が見受けられ、その積極性を垣間見る場面が多くあった。

<キャリア関連>

入学式後に保護者対象のキャリア支援に関するガイダンスを実施し進路サポートの内容や、近年の近年の進路・就職実績の説明を行った。大学 3 年次生、短大 1 年次生を対象に進路ガイダンスを実施。卒業後の進路について理解を深め、具体的な行動に移すための契機として取り組んだ。また、企業就職志望者対象に MIRAI セミナーを 12 回実施し、自己分析・エントリーシート対策や SPI 性格検査等を提供した。（参加延べ 109 名）。これらに加えて、進路に係る各種採用説明会を実施した。主に音楽教室（ヤマハ等）の講師採用説明会や公立学校教員採用（大阪市、堺市、豊能地区、神戸市、愛媛県）説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊やパソナ音楽島、神戸市職員等の採用説明会を実施した。また、創作系専攻とビジネス系専攻のニーズに合わせた大手ゲームメーカーによるサウンド職説明会や音楽系企業説明会も多数開催した。

こうした説明会等の他に、講座やセミナーを多数開催しており、韓国語講座、就活メイク講座、証明写真撮影会、教員採用試験対策として筆記試験及び模擬面接なども行った。さらに、音楽教室講師を目指す学生には、ヤマハ音楽指導及び演奏グレード 5 級取得準備講座、音楽教室起業セミナーを開催した。また、全保護者対象にキャリア支援に関するガイダンスを実施し、本学のキャリア支援の仕組みと社会で活躍する卒業生との懇談を行った。キャリア支援センター学生支援の柱の一つである定期学生面談を大学 3 年次生及び短大 1 年次生を対象にリモート面談も交え実施した。この学生面談・相談は定期以外にも年間を通じ随時実施している。

最後にキャリア教育の一環であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て春期に年一回実施し、17 の企業・団体に延べ 40 名を派遣した。実習前にはマナー等の事前指導を行った。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、リクナビ、マイナビ等のセミナーを開催し情報提供を行った。

学長主導の教育改革

●要旨

従来から建学の精神や三つのポリシーに基づき教育課程のあり方を検討してきた取り組みに加えて、2020 年以降コロナ禍の中で必要性が問われた事項を加えて、さらなる教育改革を推進した。

●成果及び達成度

過年度より実施している教員評価制度は、各教員による教育活動及び教育能力等についての自己評価を基に、学長、副学長、教育部長を構成員とする学長室会議において点検・評価を行うものであり、この制度を通して教育力の向上と人材育成に取り組んでいる。また多様な学生を受け入れることにより生じる新たな課題について、リメディアル教育のシステムや学生のメンタル面をケアする体制の充実により学生に寄り添うための丁寧な取り組みを行っている。卒業生の進路について一般企業への就職率の増加を受けてさらに充実したキャリア教育の必要性が問われている。キャリア事務部門を中心としたサポート体制に加えて、音楽専門教育との相乗効果を図りながら音楽大学の特質を生かしたキャリア教育を展開している。「演奏を伴わない領域」としてのミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻、ミュージックビジネス専攻の展開は、従来の音楽大学の既存概念を打ち破る将来を見据えた内容を包摂するものである。

●今後の展望

大学としての具体的な方針は以下のとおりとし、引き続き教育改革を推進する。

・目指す方向性

本学が継承してきた、音楽に対する見識や技術を高めること、世の中に認められる優秀な学生を育成することは堅固に維持しつつ、多様な学生に対応する基礎力の向上、学習支援の充実に努める。

・存在意義

社会に対する存在意義として「ちから強い音楽人」を育成、輩出することを掲げる。高い音楽性や技術はもとより、音楽に対峙する中で得られる忍耐力、集中力、創造力、協調性などを持つ人材を育成することに努める。

・在り方

新規に開設した専攻や開設予定の専攻が、伝統的な音楽教育から得られる成果と呼応、刺激しあうことにより、他の音楽専門大学には見ることのできない独自の成果を創り出すことが可能となり、その方向性が本学の将来の在り方を示すことになる。

短大音響照明コースの開設

●要旨

大阪音楽大学短期大学部の音響照明コースが新たに開講を迎えた。

専門的な技術に加えて総合プランニングできる視野を持つ音響照明スタッフの育成という業界のニーズに応えるべく、音楽・エンターテインメント業界の未来を担うエンジニアを養成する。

●成果及び達成度

音響と照明の両分野について、基本的項目から丁寧に講義と演習を交えた授業を展開した。

学内のホールと学外のライブハウスを活用した実践的な環境での学びを行い、応用力も磨いている。

また、大学、音楽大学としての教養科目も学ぶことにより、即戦力としてのみならず、広い視野を持った人材育成を目指している。

●今後の展望

他専攻・コースとの連携や交流を通じ、人脈も構築し、実践の場を開拓していく。

キャリア支援センターとの連携を密に図り、就職を強力にサポートしていく環境を構築する。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

前年度に続き、「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」の運営を行い、本専攻主催の「羊は安らかに草を食み〜被爆ピアノとダンスが織りなす未来〜」及びフリンジイベントである「オープンマイクパーク」、「シタールに浸〜る銭湯でエスニックな音楽に浸って温まっていきまへんか〜」「音の改札〜言葉の切符を紡ごう〜参加型 即興曲づくりワークショップ」を開催した。その他、豊中市文化芸術センターで有料コンサート「黒笛来豊」、こども本の森 中之島で「こどもほんのもりコンサート『Bravo!』 Vol.3」、「今日だけはおとな本の森 Special!こども本の森コンサート」を実施した。

●成果及び達成度

専攻として、11月22日の「邦楽演奏会」、3月8日〜10日の「ミュージカル・コース公演」の舞台マネジメントに携わった。また、国家資格である舞台機構調整技能士2級に1人、3級に5人が合格した。

●今後の展望

従来のミュージックコミュニケーション専攻の様々なイベントへの参加に加えて、地域創生の視点からの新しい活動により、専攻が活性化することを期待している。

ポピュラー学生ライブ

●要旨

学生が日頃の学修成果を発表する場として「ポピュラー学生ライブ」を開催する。また、「ポピュラー・ミュージック・コンサート」の前段階として学生が中規模のステージで演奏する機会を設ける。

●成果及び達成度

10月12日に本学ミレニアムホールにて開催した。大学2・3年、短大2年の学生が出演し、大学1年、短大1年の学生は、ステージを客席から観て学び、受付や照明係など裏方として支えた。ステージに立つための歌唱力・表現力はもちろん、「大きな舞台を成功させるんだ」という強い思い、更にメンバーとのコミュニケーション、ステージに立つ意味を理解することで、人間的成長だけでなく、人々を魅了し、広く影響を与えられる様な力の習得を目指した。

●今後の展望

今後も「ポピュラー学生ライブ」が、「ソリストとして今自分に何が伝えられるか」「自分の魅力をどれだけ表現出来るか」を再認識し、「お客様がいて下さるからこそこのステージ」との考えが、学生にとって一番成長出来る場となるよう期待している。

eラーニングの導入

●要旨

昨年度に続き、2025年度の入学予定者（総合型選抜、推薦型選抜）に対して入学前教育として「音楽基礎科目（ソルフェージュ・楽典・副科鍵盤楽器）」、「各専攻・コースの専門課題」を課す。動画などのeラーニング教材を用いて学生の基礎力を充実させることを目的とする。

●成果及び達成度

各専攻・コースの入学予定者全員が課題を提出し、概ね良好な成果を確認できた。

●今後の展望

今後も早期に合格した入学予定者の学習意欲を継続し、入学後の学習をスムーズに開始するため、動画などのeラーニング教材の充実を図る。

作曲デザイン・コース「プリプロ・スタディ」

●要旨

短大作曲デザイン・コースの2年次生が、教員や助手の支援を受けながら就職活動や楽曲応募へ向けた制作に取り組む為の課外教育活動として実施している。授業課題の対応は対象外とし、あくまで将来へ向けた活動における楽曲アイデアの昇華や、制作中の作品のブラッシュアップ、レコーディングサポート、音楽活動へのカウンセリングなどに取り組むことを想定している。昨年度の稼働率は、70パーセントであったが、今年度は35パーセントに減少した。

●成果及び達成度

学生にとって、自身の作品を世に出し、採用されるまでのプロセスを体験する貴重な学びの場となった。本事業は学生に対する実技の現場指導だけではなく、作品を応募する先の情報も確保・提供しており、応募後の報告を義務付けることによって、活動の可視化につながった。

2024年度プリプロ・スタディ受賞成果

- ・ボカコレ 2024 冬ルーキー入賞

●今後の展望

本事業は、稼働数が上がる→作品の応募数も上がる→キャリアや実績へ（採用・入賞数が上がる）の3段階で成長すると考えられ、第一段階の稼働数については来年度も学生数が増えることにより、更なる上昇が見込まれる。

次いで課題は応募数を増やすことであり、下記の取り組みにより、学生の積極的な姿勢を高め、応募活動へ繋げる。

- ・卒業生の授業内招聘（テーマ：在学中～現在の職業作曲家になるまでのプロセス）。
- ・作曲事務所や大手ゲーム会社の特別講義により、応募への積極的な姿勢を指導。
- ・募集案件など情報収集の継続とその蓄積。

プロダクション「大音ラボ」の運営

●要旨

学生の実践的な学びや経験の場として、また大学と社会を繋ぐものとして、クリエイション専攻が主体となり、渡邊教員を中心にプロダクションを運営、助手を運営の中核として事業を展開した。

この事業は、学生が将来音楽で働くための実践的な活動の場を提供することを主目的とし、働くことの一面を経験することで学生自身がキャリア形成への造詣を深め、卒業後のイメージの具体化に寄与することも目的とする。

またプロジェクトとして、企業・機関からの依頼による音楽制作など収支バランスを考慮した事業展開を行った。

●成果及び達成度

以下4つの事業を展開し、学生がその音楽の感性と技術をもって社会と接する機会を創出した。

〔楽曲等制作事業〕

以下、17のプロジェクトを行った。参加した人数は以下の通り（教員・学外業者等は除く）。

- ▼野原商行 CM 音楽制作（学生2名）▼オードーカフェ CM 音楽制作（学生3名）▼エコサイト CM 音楽制作（学生3名）▼大阪音楽大学 CM 音楽制作（学生4名）▼スマイルリフォーム CM 音楽制作（学生3名）▼JA بانک 静岡 CM 音楽制作（学生3名）▼ドラマ「母の待つ里」音楽制作（演奏員・卒業生17名）▼トヨタカローラ静岡 CM 音楽制作（学生3名）▼ZiMA クリニック CM 音楽制作（学生4名）▼五朋建設 CM 音楽制作（学生4名）▼JA 葬祭 CM 音楽制作（学生4名）▼三ヶ日みかん CM 音楽制作（学生4名）▼焼津鯉節 CM 音楽制作（学生3名）▼マブチ工業 CM 音楽制作（学生3名、卒業生1名）▼nattoku 住宅 CM 音楽制作（学生3名、卒業生1名）▼ドラマ「みつめてそらして」音楽制作（学生5名）▼映画「みんなおしゃべりだ」音楽制作（学生1名）

〔ライブ制作事業〕

MOXY 大阪本町（宿泊施設）のロビーでの音楽ライブを 2 回、制作・実施した。9 月には学生 6 名、3 月には学生 9 名（主にポピュラー系の専攻・コース生）が出演した。

〔著作権管理事業〕

（株）日音より印税の支払いがあり、著作者の学生及び卒業生へ分配を行った。

〔配信事業〕

2024 年度内に、2023 年度と 2024 年度の専攻コンペのコンピレーションアルバムを制作、配信した。

●今後の展望

より多くの学生が関われるように、獲得する案件の増加を期して、この仕組みについてより多くの企業や人に知っていただくように活動したい。

また、案件によって、専攻・コースの垣根を超えて協力して参加できるような環境作りを促進していきたい。

【2】国際交流

ドイツのオスナブリュック応用科学大学音楽研究所と提携協定を締結した。

また、以下の 1 名が海外提携校留学助成金制度の適用を受け、海外の大学で学んだ。

- ・大学 2 年 ピアノ（演奏家特別コース） 王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス）

海外提携校から以下の 2 名の留学生の受け入れを行った。

- ・オスナブリュック応用科学大学音楽研究所（ドイツ） 大学 ジャズ専攻
- ・王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス） 短大 作曲デザイン・コース

【3】学生生活支援・福利厚生

学生相談室を来訪した学生は延べ 2,201 名であり、前年度の 650 名より大幅に増加した。この相談室は授業において支援を必要とする学生が、学内の「居場所」として利用する事例も多く、日頃より心身をリフレッシュできる環境づくりに努めている。また、障がいのある学生の増加に伴い、常駐するインテーカーに対して学生の修学上の支援について助言を求める機会が増えた。

奨学金に関しては、本学独自の制度である「大阪音楽大学奨学事業財団奨学金」の 2024 年度新規貸与者数は、大学 13 人、短大 1 人であり、合計 32 人となった。

【4】教員の研究活動

研究委員会を 11 回開催した。研究助成の第 2 区分に該当する学術研究、芸術研究、研究成果公開のうち、研究成果への申請が 1 件あったが、承認後、辞退届が提出された。『大阪音楽大学研究紀要第六十三号』には、投稿された 5 本の原稿の査読を行った上で、論文 2 篇及び研究ノート 1 篇、報告 1 篇の掲載を決定し、3月末にホームページに公開した。

科学研究費には、研究活動スタート支援に 1 件、研究基盤（C）に 2 件申請があったが採択はされなかった。その他、研究代表者として非常勤教員 1 人、研究分担者として専任教員 2 人が過年度に採択されたテーマによる研究を継続している。科研費以外では、未踏アドバンス事業（IPA 独立行政法人 情報処理推進機構）に 1 件申請があったが採択されなかった。

研究活動に関わる不正行為のうち、「ねつ造」「改ざん」「盗用」についての研究倫理教育を 10 月教授会で実施した。公的研究費に関わる不正行為防止の啓発活動として、6 月に学長室会議及び事務局会議、教授会、6 月に常任

理事会で実施した。また研究費の不正使用の防止のために「研究費による自著作物の購入に関わる細則」を制定した。

内部質保証推進会議からの依頼を受けて、「教育研究環境の整備に関する方針」（案）を審議し、同会議に提出した。

FD・SD活動の充実

●要旨

FD・SD 総括委員会を 6 回開催し、2024 年度活動案に従い、FD フォーラムの開催、授業改善計画書、教員相互の授業見学、成績分布状況の把握、新任教員の研修制度、FD・SD 講習会への参加について検討を重ねた。

●成果及び達成度

各部会から提出された 2023 年度 FD 活動報告書を基にした FD フォーラムは 6 月と 7 月および 9 月の教授会終了後に実施した。教員相互の授業見学は 55 件で 21 人の教員が行った。成績分布状況の把握は、2023 年度成績分布状況データを基に行い、学修成果の点検・評価及び内部質保証の認識の共有に努めた。また、今年度に新たに行った取り組みとして「授業アンケート」の自由記述の分析および検証を行い、その結果を全学的にも共有するため、教授会においても周知した。外部講師による FD・SD 研修会は 2 回開催し、第 1 回(2024 年 9 月)は「学修成果と内部質保証」、第 2 回(2025 年 2 月)は「合理的配慮について」というテーマで実施した。参加者数は第 1 回が 37 人、第 2 回が 53 人であった。

●今後の展望

各部会で実施した FD 活動の発表と質疑応答を行う FD フォーラムは、書面だけでは分からないさまざまな活動を知る機会となるため、今後も報告書の作成と共に開催する。成績分布状況の把握・検証を引き続き行い、成績評価方法等の改善につなげる。また、学修成果の把握・評価の方法についても、検討を重ねる。新任教員の研修制度については、更に部会ごとの研修を進め、加えて全学的な取り組みについても検討する。FD・SD 研修会は非常勤教員も含め広く認知されてきたが、更に参加を促すための方策を検討する。

【5】自己点検・評価体制

自己点検・評価統括委員会を中心として大学・短大の各教育課程における各種の運営会議や運営委員会において不断に実施している。具体的には、成績分布状況、学生満足度調査、各種入学者選抜、授業アンケート、卒業時アンケートの点検・評価を行っている。自己点検・評価の結果は教育の向上に向けた取り組みに反映するように提案している。とはいうものの、機関全体としての内部質保証が十分に機能しているとは言えないため、新しい体制の構築を検討している。

自己点検・評価

●要旨

自己点検・評価統括委員会を中心として大学・短大の各教育課程における各種の運営会議や運営委員会において不断を実施している。具体的には、成績分布状況、学生満足度調査、各種入学者選抜、授業アンケート、卒業時アンケートの点検・評価を行っている。自己点検・評価の結果を、教育の向上に向けた取り組みに反映するように内部質保証推進会議に提案している。また規程として整備されているものの、本学の実情に即しているかどうかの点検を行い、内部質保証推進会議に改善を提案する。

●成果及び達成度

翌年度に自己点検・評価書を作成するにあたり、第 4 期認証評価の評価基準および指定されるエビデンスに沿って、フォーマットを作成し、各規準の対応状況を分かりやすくした。

規程の点検・評価を行い、大学院に関する規程、また「大阪音楽大学専任教員採用選考基準」「大阪音楽大学短期大学部専任教員採用選考基準」および「大阪音楽大学専任教員昇格基準」「大阪音楽大学短期大学部専任教員昇格基準」において、実務家教員や嘱託専任について対応できていないことが分かった。

●今後の展望

来年度からの新しい内部質保証体制の方針にもとづき、IR室と連携し、自己点検・評価を行い、その内容を内部質保証推進会議に報告していきたい。

学生による授業アンケート

●要旨

全学的な自己点検・評価活動の一つとして、ポータルシステムを利用してウェブで「学生による授業アンケート」を実施した。アンケートの回答率を高めるために、授業時間内に教員が指示することを徹底し、非常勤教員に対しては部会から告知した。

●成果及び達成度

大学・短大・大学院の全教育課程における前期の授業アンケートの回答率は 60.01 パーセント、後期は 50.03 パーセントであった。昨年度に比べて、前期はほぼ同じであったのに対して、後期の回答率が約 5 パーセント下がった。

●今後の展望

ポータルシステムを利用することによって、授業内に指示しても回答率が低い傾向にある。回答率を上げ、自由記述も積極的に行うよう今後改善方策を検討する。

授業改善計画書

●要旨

昨年度後期の「学生による授業アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授業等の一部科目を除く）と一部の非常勤教員が担当する科目について授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書はまとめて、クラウドで同計画書を執筆した全教員に閲覧可能にした。

●成果及び達成度

授業改善計画書の目的の一つは、各教員が授業の内容と実施方法を着実に振り返ることによって、改善への「気づき」をもたらすことである。また、同計画書をまとめ、各教員が閲覧することによって、他教員の授業の状況や「気づき」を参照しやすくなり、それを各自の授業実践に反映させることを通じて、本学全体の教育の質向上に役立つことが期待される。なお、集成した授業改善計画書は、「学生による授業アンケート」に対するフィードバックとして、学生・教職員が自由に閲覧できるように、付属図書館、学生支援センター、教職員集会室等に配備した。

●今後の展望

今後も前年度後期の「学生による授業アンケート」の集計結果を基にした授業改善計画書の作成を継続する。現在、全専任教員に授業改善計画書の作成を義務付けているが、専任嘱託教員にも義務付け、非常勤教員にも作成を促し、より充実したものにする。

【6】音楽メディアセンター 付属図書館

本学学生の図書館利用は、前年度と比較した場合、3.3 パーセント以上の向上が認められた。利用率をさらに向上させる取り組みとして、企画展示、イベントの実施及びアンケート調査の結果、学生からの要望が多い小説を主とする文庫本の購入を増やすこととした。これらの活動を経て、2025 年 3 月 31 日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約 116,103 点、視聴覚資料は約 54,930 点となった。また、10 月 8 日に私立大学図書館協会 2024 年度

阪神地区協議会第 2 回研究会を当番校として、Z世代の接遇研修をテーマに協会員限定のオンライン開催で実施した。

【7】音楽メディアセンター 楽器資料館

楽器資料館は西洋楽器・和楽器展示室（K 号館 3 階フロア及び一部 2 階図書館入口前）、民族楽器展示室（D 号館 401 教室）の 2 つの展示室での運用となっている。前年度に引き続き、大学のホームページに開館日時を公開し、外部からは予約で受け付けている。学内の研究や授業で利用されているほか、外部の研究者も来館しており、楽器資料館としての役割を果たしている。

本学の創立者ゆかりの永井文庫を A 号館 1 階の「第 2 応接室」内に設置した。永井文庫の調査のため外部の研究者が来訪し、活用されている。関西洋楽史資料も永井文庫と同じところに保管している。

今後も引き続き、資料館の公開、研究での活用、授業などでの利用等をおこなっていく。

【8】付属音楽幼稚園

前園長が定年退職し、新園長による運営体制となった。

・園児の在籍状況について

3 歳児の入園が 56 名だったため、3 歳児クラスを 2 クラス編成とした。

5 月 1 日付けで 210 名が在籍（3 歳児 3 クラス 56 名、4 歳児 3 クラス 77 名、5 歳児 3 クラス 77 名）3 月にはそのうち 5 歳児 77 名が卒園した。

・2 歳児親子教室「りんごクラブ」について

2024 年度は、前期（5 月～9 月）、後期（10 月～3 月）に募集し、前期 41 組、後期 25 名の申込があった。2025 年度入園児（3 歳児）67 人のうち 30 名が「りんごクラブ」より入園する結果となり、2025 年度現在は 25 組が申込をスタートしている。引き続き、園児獲得につなげていきたいと考える。

・音楽教室「クレフ」（希望者対象の課外レッスン ピアノ・ヴァイオリン・マリンバの 3 科目）について

6 月 1 日付けで 86 名が在籍し園内における対象園児の約 56 %が受講した。

少人数制の音楽指導「Poco」

●要旨

「みんなで楽しむ音楽」を中心とした保育を目的とした事業であり、年中・年長児を対象にキーボード、ヴァイオリン、マリンバ（打楽器）を使って少人数グループに分かれて専門講師の先生と一緒に活動するものである。2024 年度も従来通りレッスン室での指導（1 クラス 3 名程度）で行なった。

●成果及び達成度

Poco ではヴァイオリン、キーボード、マリンバ（打楽器）の 3 種類を使用している。

園児はその年齢や環境による理由からそれらの楽器を日常的に触れる機会は少なく、習い事として経験する子どもに関してもそれらの 1 種類であることがほとんどであるため、保育の中で経験できることは保護者にとっても満足のいく活動の 1 つと言える。活動を通して技術の向上を目的とするのではなく、友だちと共に行う楽しさを感じたり、講師の援助により「できた！」という体験を通して達成感を味わうことをねらいとした。幼児期のそのような体験の積み重ねが個々の自信の素地となるため様々な活動に活かすことができた。また前年度に引き続き、保護者が参観する日を設けた。

●今後の展望

音楽幼稚園の特色となる事業であるため、引き続き広報活動を広げ、幅広くその活動を告知する機会をもつことを検討する。保護者の参観の機会も設け、保護者に対しても事業の中身の理解を進めていただくことができた。

楽器を楽しむだけでなく、その様々な演奏を聴くような参観やイベント等の集会の機会をこれからも増やしていきたい。

その結果、音楽に関心を抱く家庭の入園につながると同時に、課外事業である音楽教室「クレフ」の受講生の獲得にもつながるのではないかと考える。付属園として音楽を大切にしたい保育を行っていききたい。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

大学及び短大で総合型、学校推薦型、一般、後期総合型の4種類の入学者選抜と、大学院、大学専攻科、大学3年次編入、短大専攻科でもそれぞれ入学者選抜を実施し、すべての入学者選抜を適正に終えることができた。入試広報関連としては、オープンキャンパスや体験レッスン、セミナー、ワークショップや、外部施設での無料体験レッスンなどの各種イベントを、年間を通して開催した。

オープンキャンパスの開催

●要旨

各専攻・コースの教育内容や指導者、施設等の教育環境の充実、入学者選抜制度、在学生の状況等重要な情報を伝える機会として、「トライアルレッスン」（本学教員による無料体験レッスン）と合わせて、「オープンキャンパス」を実施する。

●成果及び達成度

今年度から、各イベントの事前予約はなくし、来場予約のみを採用したことから、気軽に参加できるようになり、昨年度より来場者が微増した。また11月からは「学食体験」で、同伴者に有料販売を、3月には「全専攻コース対象の教職課程のイベント」を実施し、受験を目指す高校生に広く本学の魅力を伝えることができた。

●今後の展望

参加者の増加を目指し、さらなる受験生の確保に向けた貴重な機会とするため、「イベント内容の充実」を今後の重点課題とする。参加者が本学の教育を体験できる内容を多く取り入れ、充実した教育環境や取り組みの認知度を高める機会にする。また例年同様、資料請求者への資料送付、高校への周知、高等学校教員への個別案内、SNSでの発信によって資料請求者以外への周知を高める。

専攻・コースイベント

●要旨

専攻・コース別にイベントや出張授業等の入試広報活動を展開する。今年度は新たに①「作曲家、クリエイターの仕事紹介講座」と②「ピティナ・ピアノコンペションと連動した本学ピアノ教員によるレッスン」を追加する。

①はミュージッククリエーション専攻、作曲デザイン・コース、シンガーソングライティング専攻・コースが合同で、講座を実施し、作曲家やクリエイターという職業の存在とその内容を広く認知させ、業界への興味を向上させることにより、本学の作曲系専攻・コースの志願者を増加させる。

②は通常対象としない小学生を対象とすることで、より早い段階での意識付けを狙い、音楽の進路先を選択する可能性が高い子供たちやその保護者が、大阪音楽大学の設備や環境を知るきっかけになり、本学をより身近に感じることで、将来の志願者獲得につなげる。

●成果及び達成度

過年度に引き続き、声楽専攻・コースによる「中高生のためのオペラセミナー」、ピアノ専攻・コースによる「ピアノ講座」、管弦打専攻・コースによる「吹奏楽フェスティバル」、ポピュラーエンターテイメント専攻・コースによる「ポピュラーミュージックフェスティバル」と「ヴォーカルパフォーマンスコンテスト」、ミュージカル・コース

による「高校生のためのミュージカルワークショップ」、ミュージックビジネス専攻と音響照明コースによる「専攻独自のオープンキャンパス」、演奏系の専攻・コースによる「楽器店での出張レッスン」等のイベントを行った。

また今年度新たに追加した ① については中学生・高校生を対象に 2 回実施し、32 名の参加があった。② については 6 名の教員により 2 日に分けて小中学生に対し 20 名のレッスンをを行った。このように年間を通じて多数の入試広報活動を展開することにより、志願者層に本学の魅力を伝える機会となっている。

●今後の展望

各専攻・コースの充実した教育内容や指導教員、施設等の教育環境、在学生の状況を伝える重要な機会となるよう来年度以降も継続して実施する。

【2】対社会事業

＜社会連携事業＞

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等さまざまな分野の団体と連携を結び社会貢献活動を実施している。当センターの社会連携関係事業は、大きく分けて官学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

・地域社会との連携

① 豊中市が主催の「第 9 回豊中音楽コンクール」について、6 月に予選、7 月に本選を行った。今回から、若手の登竜門として高校生限定のコンクールとなった。運営に関しては大きなトラブルもなく、参加者、関係者から体調不良者も出ることなく実施できた。

また、豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市、豊中市教育委員会との共催で「第 12 回豊中こども音楽フェスティバル」を滞りなく実施した。前半の内容を大きく変更し、本学の学生の出演を大幅に増やすことが出来た。

② 寝屋川市との包括連携協定により、市主催事業の「アルカスピアノコンクール」へ審査員紹介を行った。

・学校間連携事業

① 学校法人常翔学園と学校法人大阪音楽大学が連携協力に関する協定を締結し、連携協定記念プロジェクトの一環として、毎月第 2 土曜日にロビー・コンサートを開催した。

② 関西学院大学と大阪音楽大学の単位互換に関する協定に基づき、本学と関西学院大学の間で単位互換を実施した。

また、本学において関西学院短期大学生を対象に、発声講座と打楽器講座を開催した。

③ 学校法人大阪成蹊学園と学校法人大阪音楽大学が連携協力に関する協定に基づき、大阪成蹊女子高等学校オープンスクールへの講師・奏者の派遣や正課レッスン、ミュージカルワークショップを滞りなく実施した。

④ 奈良県立高円芸術高等学校との教育交流に関する連携協定

相互の教育交流を通じて高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲高める活動の一環として、正課授業（吹奏楽・フルートレッスン・ヴァイオリンレッスン・探求の時間）に年間通して本学教員の派遣した。

また、本学と高円芸術高等学校との共催イベントとして、2024 年 6 月 9 日（日）に合唱講習会を開催した。

⑤ 京都市立京都堀川高等学校との高大連携事業

京都堀川音楽高等学校の音楽教育・学習の充実を図る為、声楽専攻生徒（全学年）を対象に、声楽のディクシオン授業を提供した。また、新たな試みとして管楽器特別授業を開催した。

・公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市等、自治体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

① 豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」

② 高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」

③ 羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介

- ・依頼演奏

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として、演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに大学の広報活動の一翼を担った事業でもある。

また近年は、在学生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。

年間複数回開催している企業、団体は、マツシマホールディングス、JCHO大阪病院など。

- ・その他

ビュッフェランポン協力のもと、中高生対象にワークショップ（クラリネット・ホルン）を開催した。

また、本学関係者がビュッフェランポンの楽器で演奏するなど、産学連携要素が含まれる。

DAION 座ワークショップ&コンサート&レッスン

- 要旨

DAION ミュージカル研究会会員が中心となり、外部団体から依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施する。広く DAION 座の存在を周知し、将来、大阪発の創作ミュージカルを上演する際には、芸術面だけでなく、経済的な成功も目指し本学の名声をも高めることに繋げる。上演に備え、講師を招き、DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高めるためのレッスンを有償で行い、運営費の一部に充当する等収支バランスを考えた事業展開を行っている。

- 成果及び達成度

2023 年度に引き続き、通常実施しているレッスン、ワークショップ等を行った。

更に今年度は外部団体から依頼のあったワークショップやイベントなどにも参加をした。事業等の詳細は以下の通り。

- ・DAION 座 夏のワークショップ（延べ参加人数：学生 11 名）

7 月 27 日、28 日

- ・レッスン

4 月～3 月実施（2 月、3 月はなし）

DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高める為、講師を招きほぼ毎月実施。

- ・ワークショップ名：第 2 回ポラリス国際音楽祭ワークショップ

日程：2024 年 10 月 20 日（日）12：30～

会場：メイシアター

出演者：教員 1 名、助手 2 名、学生 6 名

- ・イベント名：第 26 回日本在宅血液透析学会主催イベント

日程：2024 年 11 月 9 日（土）18:30～

会場：グランドプリンスホテル大阪ベイ

出演者：教員 5 名、助手 1 名

- ・公演名：第 4 回フェニーチェ堺アートマネジメントセミナー舞台技術セミナー

ミュージカル公演「リリアとリリア」

日程：2025 年 3 月 19 日（水）17:00～

会場：フェニーチェ堺 大ホール

出演者：教員 1 名、助手 1 名、卒業生 2 名、学生 35 名

- 今後の展望

DAION座の活動を活発化し、可能な限り「ワークショップ」や「コンサート」の依頼を受諾・受容し、積極的に活

動実績を上げていく。

ミュージッククリエイション専攻卒業作品発表会

●要旨

2025 年 2 月 16 日（日）、ミレニアムホールにて「MUSIC CREATION AWARDS 2024」を開催した。卒業年次の当該専攻生のうち、出演を希望した学生 17 名が、各自で制作した「セルフプロデュースアルバム」をプレゼンテーション（歌唱、演奏等）した。内容はオーケストラ、弾き語り、バンドミュージック、音響作品など多岐に渡った。映画監督の中野量太氏、他 5 名の審査員により、6 つの賞を選定・表彰した。また、音楽関連企業から 11 名を招待した。当日は一般者も入場可。ミレニアムホールが終始ほぼ満席となる盛況ぶりだった。公演終了後は学生、審査員、招待した音楽関連企業の方、および教職員にて交流会を行った。

●成果及び達成度

出演学生にとっては、大学での学びの成果を発表して世に問う、意義ある機会となっている。また、自身の音楽と社会との接点を知るケーススタディとして、卒業後、更に活躍するための重要な体験を与えることができている。

審査員や招待鑑賞者（音楽関連企業の方）、および将来の志願者層を含む社会全体に対しては、当該専攻における学びの幅広さと、深さを知っていただく良い機会になっている。また、交流会においては各立場間の交流を深めることに成功しており、当該専攻を取り巻く様々な環境での好循環を生む場として有効に機能している。

●今後の展望

当該専攻の卒業年次生のための重要な成長の機会、および成果発表の機会としてキャリア支援の観点から有効である。また、本学と音楽関連企業をはじめとする社会全体とのつながりの場としての価値も高いため、専攻教員によるブラッシュアップを加えながら、Cr専攻の最終学年が卒業する年次まで継続して実施する。

サウンドスクール

●要旨

豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006 年から事業を展開。主に豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を実施している。

実施件数は、こども園 12 件、小学校 69 件、中学校 15 件、義務教育高校 5 件、実施日数は、こども園 12 日、小学校 72 日、中学校 26 日、義務教育学校 5 日、延べ 880 名を教育現場へ派遣した。

●成果及び達成度

前年度にも増して多くの申込みがあった。

中学校においては吹奏楽楽器別講習会の申込みも多数見受けられた。ピアノ独奏、ヴァイオリン独奏（ピアノ伴奏あり）、サクソフォーン四重奏、弦楽四重奏、金管五重奏、打楽器アンサンブル、邦楽アンサンブル<箏・三味線>、箏講習会を、6 月から翌 3 月まで実施。コロナ禍の影響もあり、生の音楽を聴く機会が減少していたこどもたちに生きた演奏を届けることができ、児童、教職員ともに好評だった。実施したすべての学校より、教育活動への効果について、前年度同様、良い評価を頂いた。昨年度より実施回数、実施日数、派遣者数ともに増加した。

●今後の展望

サウンドスクールの教育効果を周知し、今年度の応募件数を維持する。また、SNS などを活用し、サウンドスクール活動を随時配信する。部活動の地域移行をにらみ中学校の楽器別指導など、吹奏楽の指導に関しても積極的に取り組んでいく。

豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015 年度から豊中市と共催で、2019 年度より豊中市主催として、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は 2019 年度より運営を委託されている。6 月 23 日（日）に予選、7 月 7 日（日）にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を行った。今年度より高校生対象となりコンセプトを明確化した。ピアノ、声楽、管楽器、弦楽器の各部門を設け、定員は各 40 名、審査員は本学教員と学外の著名な演奏家の方々に依頼して行った。上位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者（1 名）は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

ピアノ部門 26 名 声楽部門 27 名 管楽器部門 24 名 弦楽器部門 14 名 合計 91 名

ピアノ部門および弦楽器部門は微増。声楽部門および管楽器部門は数を減らしている。

前回以上に範囲を広げ、周知徹底を行った為、コンクールとしての知名度は着実に上がっている。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市主催のもと、2025 年 6 月 22 日に予選、7 月 6 日（日）に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方にも依頼することができたため、全国に開かれた音楽コンクールとして、また、若き才能の持ち主達の登竜門として、地位を確立したい。

豊中こども音楽フェスティバル

●要旨

豊中中央ライオンズクラブ・豊中市・豊中市教育委員会・大阪音楽大学が連携し、9 月下旬に実施する。内容は、豊中市にゆかりのある中学生・高校生・大学生による演奏。2024 年度より小さなお子様も楽しんでいただけるよう、楽器紹介なども盛り込んだプログラムになっている。

音楽を通じてこどもたちの感性を育むことを目的に毎年実施している。

●成果及び達成度

本学と豊中市内中学・高等学校との連携の強化と、「音楽あふれるまち・とよなか」を市民の皆様へアピールすることが出来た。また、来場者の多くが子供連れであり、沢山の子供達が生音に触れる機会となった。

●今後の展望

今後はサウンドスクールで演奏している本学の学生や、小編成のグループなど、大編成の吹奏楽に限らず、様々な音楽ジャンルを取り入れ、文化芸術活動に取り組むこどもたちの発表の場として、こどもたちの目標となる演奏会をめざし、また、舞台芸術の鑑賞の機会として浸透するよう運営する。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇の発生地足らん」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を 3 度受賞し、モービル音楽賞の本賞や三菱UFJ 信託音楽賞の本賞、佐川吉男音楽賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立 100 周年目に当たる 2015 年度に、「創立 100 周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品と言えるオペラ「ファルスタッフ」を上演し、これを契機にオペラハウス主催オペラ公演の在り方を見直し、2017 年度から井原広樹、栗國淳、岩田達宗の 3 名の客員教授を年替わりで演出に起用し、3 年にわたる「ディレ

クターズ CHOICE」シリーズとして主催オペラ公演を行うことを決定した。2017 年度は井原広樹演出、牧村邦彦指揮で、モーツァルトの《偽の女庭師》を上演、2018 年度は栗國淳演出、森香織指揮でメノッティの《テレフォン》《泥棒とオールドミス》を上演、そして、同シリーズの掉尾を飾る 2019 年度は岩田達宗演出、牧村邦彦指揮でベッリーニの《カプレーティとモンテッキ》を上演し、いずれも高い評価を得た。2020 年度は、2014 年に上演して文化庁芸術祭で「芸術祭大賞」を受賞した「鬼娘恋首引」と「カーリユー・リヴァー」の 2 作品を井原広樹演出、牧村邦彦指揮でキャストや演出の一部に手を入れて上演する予定であったが、2020 年から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で中止となった。

その後も、コロナ禍の影響が続き、環境的にも、経済的にも厳しい状況の中で主催オペラ公演は一旦休止を決定した。但し、オペラの灯をともし続ける重要性和使命を念頭に、セミステージ形式での実施も含めて検討し、その結果、2021 年度は、オペラハウス管弦楽団定期演奏会のプログラムの中で新たな形でのコンサート・オペラとしてヴォルフ＝フェラーリの「スザンナの秘密」を井原広樹演出、牧村邦彦指揮で上演した。キャストも少なく舞台上の道具も簡易ではあったが大変見ごたえのある公演で好評を得ることができた。2022 年度は、関西初演となるハイドンのオペラ「無人島」を上演した。井原広樹の知恵を絞った演出、牧村邦彦によるオペラを知悉した熟練の棒で、本学出身の中堅歌手たちの魅力を存分に引き出し、セミステージの形式とは思えない舞台を作り上げることができた。2023 年度は、モーツァルト作曲歌劇「劇場支配人」とサリエリ作曲歌劇「はじめに音楽それから言葉」を、両曲の作曲の経緯から掘り下げ上演した。2024 年度は、ハイドン・シリーズの第二弾として、ハイドン作曲歌劇「薬剤師」を取り上げた(ノーカット原語上演日本初演)。「薬剤師」は、ハイドンが学士長として仕えていたエステルハーザー侯爵が、1768 年にエステルハーザー宮殿内に建築したオペラ劇場において、柿落とし作品として誕生した。その年の宮殿のオペラ上演回数はハイドンが自作作品を指揮上演するだけでなく、様々なオペラが上演され、実にその回数が 126 回にも及んだと記されている。今回の上演は、本学教員・井原広樹の演出により、演技エリアを大きく客席方向に迫り出させ、音響効果と、映像の臨場感を両立し、同時にオーケストラピットを敢えて浅く設定し、オーケストラ前もアクティング・エリアとすることで、エステルハーザーでの公演に近い音質やビジュアルを模索したスタイルで実施され、大きな効果を生み出した。ハイドン作曲のオペラの多くは、エステルハーザーで上演された以外は楽譜もほとんど公刊されておらず、結果的に 20 世紀半ばに至るまで忘れられる憂き目にあうことになっていたが、今回の公演は欠落した部分をランダムに新たな補足し 1969 年に出版した実用版を使用し全三幕を音楽劇としての完璧な姿に復活上演するに至った。

本学教員・牧村邦彦指揮するザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団の軽快かつまろやかさを併せ持った響きで序曲がスタートし、四人の歌手が、声楽的、演劇的に、それぞれの役の特性を的確に表現し、その結果、ハイドンのオペラの本質的な価値、音楽の素晴らしさを実証する稀有な本番となった。

今回は、Concert' Opera シリーズとして過去最多の聴衆の方々に足を運んでいただくことができ、観客の皆さまからは、随所にちりばめられたユーモアにあふれたお芝居に笑いがあふれ、技巧溢れる歌唱に盛大な拍手をいただくとともに、ハイドンらしい大胆かつ細やかな音楽の素晴らしさを堪能したという言葉を受賞した。また、東京からお見えになった複数の著名オペラ評論家の諸氏からも、ザ・カレッジ・オペラハウスでのハイドン・シリーズの意義を評価頂くとともに、上演の質が、以前と比べ一段と上がっていると称賛され、改めて大阪音楽大学、ザ・カレッジ・オペラハウスの歩みが、弛みなく前進している事に勇気を得た次第である。

一方、オペラハウスは教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されており、年間催事総数は 96 件、総入場者数は 15,482 名、総稼働日数は 213 日にも及んでいる。

また、付属のオペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に 3 件 6 回の依頼演奏を実施し、様々な団体のオペラ公演では一翼を担う存在になっている。

2024 年度には、「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」を担い、高知、徳島、兵庫、和歌山、三重、大阪、愛媛の 1 府 6 県で巡回公演事業を実施。A 区分(大編成)・C 区分(小編成)合わせて、計 14 校 14 回の公演と

ワークショップを開催した。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第 64 回定期演奏会

●要旨

管弦楽団単独のステージコンサートとして演奏会を開催した。

日時：2024 年 6 月 22 日（土）17 時開演

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

指揮：栗辻 聡

独奏：岸野 朱莉（マリンバ）

曲目：C.ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

A.コッペル／マリンバ協奏曲 第 2 番 【日本初演】

R.シューマン／交響曲 第 3 番 変ホ長調 作品 97 「ライン」

●成果及び達成度

プログラム構成の中に協奏曲を取り上げ、独奏者を大学院生の中からオーディションにより選抜し優秀な学生を出演させることで、大学院教育の充実に貢献するという目的を達成させることが出来た。

尚、2023 年度より外部コンサートへの挟み込みや他館へのチラシ配架等、広報活動にも力を入れてきたが、当日の来場者数は 266 名と未だ集客には繋がっておらず、今後の課題としたい。

●今後の展望

オペラハウス管弦楽団運営方針の改変趣旨に従い、コアメンバーに主催演奏会でステージ演奏の機会を与え、より多くの曲目経験を積ませることでメジャーオーケストラの採用オーディション受験のための実力を付けさせることや、オーディションを通過した優秀な大学院生にオーケストラ伴奏での協奏曲演奏の経験を積ませることを継続していく。また今後は、オペラハウス管弦楽団の特色を生かしたプログラム作りも検討課題とする。

今後の課題である集客については、楽団だけでなく学校法人全体としても広く広報活動に取り組むことが必要であると考えている。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第 65 回定期演奏会

●要旨

演奏会形式（セミステージ形式）のオペラとして定期演奏会で開催した。

日時：2024 年 11 月 3 日（日）14 時開演

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

指揮：牧村 邦彦

演出：井原 広樹

演目：J.ハイドン／歌劇「薬剤師」

キャスト：	センブローニオ（薬剤師）	清原 邦仁
	グリレッタ	内藤 里美
	メンゴーネ	中川 正崇
	ヴォルヴィーノ	村岡 瞳

●成果及び達成度

演奏会形式（セミステージ形式）を取ることで、限られた予算枠内でオペラ公演を実現し、比較的上演機会の少ない作品を取り上げるというオペラハウスのコンセプトも達成することが出来た。また、芸術文化振興基金及

び、公益財団法人 2 団体から助成金を得ることが出来た。

●今後の展望

通常のオペラ公演開催は今後も大変困難な状況である。2025 年度についてもオペラハウス管弦楽団定期演奏会として後期に演奏会形式のオペラを開催する予定である。

●公的助成・民間助成について

日本芸術文化振興基金：1,000,000 円

(公財) 朝日新聞文化財団：200,000 円

(公財) 三菱 UFJ 信託芸術文化財団：400,000 円

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

オペラ制作団体等外部団体からの依頼により出張演奏を実施し収益事業としている。また、学校法人の広報活動の一端も担っている。

●成果及び達成度

2024 年度は 3 会場 6 公演の出張演奏を受託し公演を行った。

8 月のいずみホールオペラ「真珠とり」では、台風の影響により開催が危ぶまれたが主催者の英断により無事に開催の運びとなった。音楽情報誌にも講評が掲載される等、好評を得ることが出来た。

1 月のびわ湖ホール「三文オペラ」では、前回（2012-13 年）の再演の為、当楽団が依頼を受けることが出来た。バンジョー、ギター、サクソフォンなど、通常のオーケストラ編成とは異なり奏者の人選は困難を極めたが、主催者や指揮者からも良い評価を得ることが出来た。

① 2024 年 8 月 31 日：佐藤正浩プロデュース いずみホール・オペラ 2024「真珠とり」

指揮／佐藤 正浩、キャスト／森谷 真理、宮里 直樹 他（住友生命いずみホール）

② 2025 年 1 月 24 ～ 27 日：オペラへの招待「三文オペラ」

指揮／園田 隆一郎、演出／栗山 昌良（再演演出：奥野浩子）

キャスト／びわ湖ホール声楽アンサンブル 他（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール）

③ 2025 年 2 月 2 日：矢掛町合併 70 周年記念演奏会

指揮／高原 守、ピアノ／近藤 由貴（やかげ文化センター）

●今後の展望

昨今の経済状況等の影響や関西のオペラ等各制作団体の運営環境の変遷により、依頼演奏の受注件数は減少の一端をたどっている。主催者からの依頼に頼るだけでなく、まずは自主公演の回数を増やし演奏を聴く機会を増やす、営業活動および提案材料の整備等、主体的に活動を行う環境をつくり上げることも、依頼演奏の受注を増やす有効な手立てと考える。

また、他楽団と比較して見積が高価であることも、受注に至らない大きな要因のひとつである。楽団の報酬支払規定の見直し、および主催者の要望に応じ金額提示ができるよう柔軟な対応をとることも、今後受注を増やす為には必要な策であると考えている。

文化庁巡回公演事業

●要旨

令和 6 年度「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）」

全国各地の小学校・中学校を訪問し一流の文化芸術団体による巡回公演を実施し、子供たちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、彼らの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成

や芸術鑑賞能力の向上に繋げることを目的としている。

●成果及び達成度

オペラハウス管弦楽団では、2024 年度大編成のA区分は 7 校 7 公演、小編成のC区分では 7 校 7 公演、合計 14 校 14 公演の巡回公演を実施した。

《日程、区分、指揮、歌・司会》

《A区分》

- ① 9 月 17 日： 和歌山県橋本市立清水小学校
学文路さつきこども園
- ② 9 月 18 日： 和歌山県和歌山市立加太小学校
加太中学校、加太幼稚園
- ③ 9 月 19 日： 和歌山県和歌山市立山東小学校
指揮／牧村 邦彦
歌・司会／内藤 里美・清水 徹太郎
- ④ 10 月 2 日： 三重県志摩市立
浜島小学校、浜島中学校
指揮／牧村 邦彦
歌・司会／内藤 里美・清水 徹太郎
- ⑤ 12 月 10 日： 大阪府大阪市立都島小学校
- ⑥ 12 月 11 日： 大阪府大阪市立開平小学校
- ⑦ 12 月 12 日： 大阪府大阪市立義務教育学校
生野未来学園
指揮／金 正奉
歌・司会／古瀬 まきを・迎 肇聡

《C区分》

- ① 7 月 3 日： 高知県いの町立長沢小学校
本川中学校、本川へき地保育園
- ② 7 月 4 日： 徳島県吉野川市立山瀬小学校
指揮／佐々木 新平
歌・司会／端山 梨奈
- ③ 7 月 10 日： 兵庫県洲本市立安乎小学校
- ④ 7 月 11 日： 兵庫県淡路市立北淡小学校
指揮／井村 誠貴
歌・司会／端山 梨奈
- ⑤ 11 月 21 日： 兵庫県神戸市立竜が台小学校
- ⑥ 11 月 22 日： 兵庫県宝塚市立安倉北小学校
指揮／牧村 邦彦
歌・司会／福嶋 勲
- ⑦ 1 月 9 日： 愛媛県松山市立栗井小学校
指揮／牧村 邦彦

●今後の展望

2024 年度から、オーケストラの統括団体として「日本オーケストラ連盟」が本格的に事業に係るようになり、各団体における採択校数の差や、2025 年度の実施団体採択状況にも影響が感じられる状況になった。

公演団体としての組織運営体制が脆弱であることや、子供を対象とした主体的な公演活動が乏しい昨今の実状では、小編成の C 区分であっても今後の採択については危機的状況にある。

ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

大学主催オペラへの出演及び依頼演奏会への出張演奏を実施する。

●成果及び達成度

2020 年度以降実質 5 年以上自主公演、大学主催オペラへの出演及び依頼演奏会等すべての演奏活動を実施していない。

●今後の展望

近年、演奏活動を実施しておらず、またマネージャー等の運営スタッフも選任されていないため名目だけの団体となっている。登録メンバーの高齢化も進んでおり、今後合唱団として存続運営するのであれば再編成が必要と思われる。

【4】付属音楽院

収支の黒字化、キッズジュニアコースの改革、YouTube のチャンネル登録者数増を目指し運営。受講生総数は 900 名を超え、収益も安定してきた。

キッズジュニアコースのリトミックや幼児系のレッスンにおいて、お客様のニーズに合わせたおまとめチケット制や時間帯選択制などを取り入れ、より受講しやすい環境を整えた事により、0 歳～2 歳、そして 3 歳児の定着率が大幅にあがった。3 歳児からは様々な楽器のレッスンが受講可能となる為、音楽の裾野が確実に広がっている。また卒業生にお子さんが生まれ、リトミックを受講生しにくるといった嬉しい循環も感じられた。

音楽院の進学コース、マンツーマンレッスンコースから以下のとおり進学者を輩出し、未来の音楽家育成に貢献できたと考える。

- ・大阪音楽大学 25 名
- ・大阪音楽大学短期大学部 1 名
- ・兵庫県立西宮高等学校 2 名
- ・大阪府立夕陽丘高等学校 1 名
- ・同志社女子大学 1 名
- ・愛知県立芸術大学 1 名
- ・北海道教育大学 1 名
- ・東京学芸大学 1 名

2025 年度についても受講生の満足度を上げ、進学者獲得に力を入れていく。

音楽院 進学コース充実のための事業

●要旨

進学コースに在籍する受講生への特典（入学お祝い金、音楽院賞、特別給付奨学金の贈呈）を付加価値とし、音

楽・芸術系大学を目指す受験生の育成を図る。

●成果及び達成度

〔入学お祝い金、音楽院賞、特別給付奨学金〕

対面クラス 21 名、web クラス 1 名が在籍し、2025 年 4 月には本学に 12 名、他大学に 1 名が入学した。
入学お祝い金・音楽院賞・特別給付奨学金の獲得者は以下の通りである。

・入学お祝い金

実技クラス[5 万円]：1 名

音楽基礎科目クラス[10 万円]：7 名

実技クラス・音楽基礎科目クラス両受講[20 万円]：3 名

・音楽院賞

実技優秀賞[15 万円]：1 名

実技奨励賞[8 万円]：該当者無

音楽基礎科目優秀賞[10 万円]：2 名

・特別給付奨学金[20 万円]：1 名

●今後の展望

各学年 10 名、全学年で 30 名の在籍者を目標に掲げ、入学前に十分な能力を身に付けてもらえるようカリキュラムも工夫し見直していく。2025 年度からは音楽基礎科目土曜日クラスも開講する為、より一層入学志願者獲得に貢献したい。

YouTube 事業

●要旨

音楽院講師や大学教員、本学学生を起用し、レッスンや演奏動画、コンサート動画、舞台裏動画など様々な人に音楽を身近に感じ楽しんでもらえるような動画を制作している。

専攻が違う教員のコラボ動画など、音楽院や大学の広報的な観点からの動画も作成している。

●成果及び達成度

2025 年 4 月時点でのチャンネル登録者は 8,264 名。チャンネル登録者が増えるにつれて YouTube 動画から受講に繋がるケースも増えてきている。

●今後の展望

2025 年度には 10,000 名～ 12,000 名の登録者をを目指す。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

本学の取組みに関する効果的な情報発信を目指し、時代に合わせた各種媒体・機会の活用による広報展開を昨年度に引き続き行い、今年度も Web 上での広報展開を強化した。

本法人ホームページや SNS では、視覚に訴えるべく動画や写真を積極的に活用した。2026 年度大学に新設する音楽クリエイター専攻をはじめ、近年新設したミュージックビジネス専攻（大学）、音響照明コース（短大）などの広報を中心に各専攻・コースの魅力、取り組みを Web 媒体、動画などで広くアピールした。

広告においては、ターゲットを絞った Web 広告の活用を中心に、時代に合わせた広報を展開した。

その他、広報誌を紙面から Web にリニューアルした Web マガジンでは、従来よりも幅広い層へのアプローチを行った。また、リーフレット・チラシなどの紙媒体、イベント出演、マスメディアへの掲出など各種媒体、機会の活用により、本学の社会的認知度と好感度の向上を図り、ブランド力の強化に努めた。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動について

●要旨

本学各専攻・コースの認知度及びイメージ向上を図る広報活動を通じ、建学の精神、教育理念を社会に発信し、本学の存在感を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

前年に引き続き、広報媒体や宣伝機会ごとの特性に応じた多角的な情報発信に努めた。今年度も引き続き Web 上での広報展開に力を入れるべく、SNS や Web 広告を中心とした広報展開、広報誌を紙面から Web にリニューアルした Web マガジンの活用、ニュースリリースの Web 媒体への配信など、Web 上での情報発信を積極的に行い、本学ホームページへの流入数確保と、より本学に関心のある層を流入させることへと繋げた。また、2026 年度大学に新設する音楽クリエイター専攻をはじめ、近年新設したミュージックビジネス専攻（大学）、音響照明コース（短大）などの広報を通して、従来の層よりも幅広い層からの反応を得ることができ、歴史と伝統を尊重しながらも、時代の変化に対応する本学の姿を広く社会に印象付けることができた。

●今後の展望

様々な機会や媒体を活用して、本学の新たな取り組み及び各専攻・コースや教員の魅力を社会に発信し、創立以来 100 年を超える歴史と伝統の上に新たな大学・短大のブランドを構築し、入試広報にも繋げていくものとする。

【2】施設・設備

施設・設備の適切な維持保全を計画的に進め、主に省エネ・老朽化対策に関する工事を実施した。情報システム関係では、業務系学内 LAN システム全体の設備維持のため、業務系学内 LAN サーバ・ネットワーク機器の経年劣化対策を行った。また、次年度より順次稼働を予定している学務・入試業務システムの再構築に向けた検討・移行作業を進めた。

既存施設設備のリニューアル工事

●要旨

既存施設設備に対する経年劣化対策を順次行うことで施設設備の維持・充実を図った。

●成果及び達成度

実施した主な改修・整備工事は以下のとおりである。

- ・ A 号館屋上防水・外壁塗装
- ・ A 号館給水ポンプの更新
- ・ A 号館冷媒配管の更新
- ・ B 号館給水ポンプの更新
- ・ J 号館受変電設備（キュービクル）の更新
- ・ L 号館電話交換機（PBX）の更新
- ・ L 号館吸排気装置インバータ・動力盤の更新
- ・ O 号館受変電設備（キュービクル）の更新
- ・ O 号館電話交換機（PBX）の更新
- ・ 豊南寮受水槽・高架水槽の改修

- ・豊南寮夜間警備体制の見直しに伴う改修工事
- ・付属幼稚園職員室改装工事
- ・付属幼稚園通用門の更新
- ・固定電話回線の光回線への切替工事

●今後の展望

財政状況を踏まえ、中長期的な保全計画を立てて財政負担の平準化を図りつつ、施設設備の維持保全及び新たな需要を見据えた教育環境の整備・充実に努める。

業務系学内 LAN サーバ・ネットワークシステム再構築、および学務・入試業務システム再構築に関する検討

●要旨

業務系学内 LAN サーバ・ネットワーク機器の経年劣化対策を行い業務系学内 LAN システム全体の設備維持を図った。また、ネットワークの遅延や輻輳対策として VPN 網の見直しと不審な挙動やマルウェアを検知するためセキュリティ対策サービスを導入した。

●成果及び達成度

今年度完了したシステム再構築は以下のとおりである。

- ・業務系学内 LAN サーバ・ネットワークシステム再構築

●今後の展望

学務・入試業務システムのソフトウェアサポート期限を迎えるまでに再構築を実施する。再構築にあたり授業関連、学生サービスに支障をきたさないよう配慮しながら引き続き検討する。

【3】法人の運営

改正私立学校法（令和 7 年 4 月 1 日施行）に対応した寄附行為の作成を行った。理事会および評議員会において慎重な審議を重ねた結果、2024 年 10 月 7 日付けで文部科学省へ寄附行為変更の申請を提出し、2025 年 1 月 24 日付けで認可を受けた。本変更により、法改正に適切に対応するとともに、法人運営においても安定したガバナンス体制の維持・強化を図っていくことを改めて理事会・評議員会において確認を行った。

音楽分野における教育の質と選択肢の明確化を図るために、新たに「音楽クリエイター専攻」を 2026 年度より大学に開設することを、理事会において決定した。当該専攻は、大学における「作曲専攻」「ミュージッククリエーション専攻」および短期大学部における「作曲デザイン・コース」の学びを統合し、重複する教育内容を整理・再編成することで、より学修者本位の教育課程の実現を目的としている。なお、対象である 2 専攻および 1 コースについては、2025 年度入学生をもって募集停止とする。また、短期大学部の入学定員および収容定員については作曲デザイン・コース募集人員に相当する人数の削減を計画している。今後は、円滑な移行と新専攻の開設準備を進めていく。

2025 年度に創立 110 周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として、「大阪音楽大学 110 周年記念ロゴ」の制作を行った。本ロゴは、数字の「110」と英単語「Fellow（仲間）」をモチーフとしており、特に「110」の数字と「LLO」の部分を重ね合わせたデザインとなっている。コンセプトは「Fellow=仲間」。本学で学び羽ばたいた卒業生（仲間）が、次の世代の音大生という新たな仲間を育み、繋げてきた 110 周年の歴史と、未来への継続を象徴している。今後はこの記念ロゴを、本学の催しものやチラシ等に活用するとともに、同窓会（幸楽会）と連携し、記念演奏会などの記念行事を企画・実施していく。

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
固定資産	15,137,731	14,684,253	14,240,018	13,952,277	13,866,314
流動資産	1,213,610	1,111,017	905,064	824,639	689,732
資産の部合計	16,351,342	15,795,270	15,145,082	14,776,916	14,556,046
固定負債	2,278,230	2,111,718	1,988,794	1,820,957	1,740,067
流動負債	254,897	279,077	255,146	279,528	273,289
負債の部合計	2,533,127	2,390,795	2,243,940	2,100,485	2,013,355
基本金	17,939,597	18,062,494	18,079,606	18,128,629	18,137,496
繰越収支差額	-4,121,383	-4,658,019	-5,178,464	-5,452,198	-5,594,805
純資産の部合計	13,818,215	13,404,475	12,901,142	12,676,431	12,542,691
負債及び純資産の部合計	16,351,342	15,795,270	15,145,082	14,776,916	14,556,046

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
固定資産構成 比率	固定資産					
	総資産	92.6	93.0	94.0	94.4	95.3
固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標。						
流動比率	流動資産					
	流動負債	476.1	398.1	354.7	295.0	252.4
流動負債に対する流動資産の割合。学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する指標。						
総負債比率	総負債					
	総資産	15.5	15.1	14.8	14.2	13.8
固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する比率。						
前受金保有率	現金預金					
	前受金	1370.0	1052.4	876.6	851.2	762.3
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。						
特定資産構成 比率	特定資産					
	総資産	25.7	25.1	25.0	25.3	26.9
特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況の評価する指標。						

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
学生生徒等納付金収入	2,150,453	2,140,928	2,173,833	2,228,416	2,256,759
手数料収入	16,205	17,763	18,374	16,929	15,441
寄付金収入	110	0	0	566	599
補助金収入	220,713	251,257	300,826	298,471	280,930
資産売却収入	479,927	105,164	120,954	154,160	2,187
付随事業・収益事業収入	111,234	140,642	165,522	169,359	170,017
受取利息・配当金収入	91,696	83,904	104,089	110,651	129,680
雑収入	171,009	218,015	203,008	264,567	188,113
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	82,660	87,270	93,360	84,560	80,420
その他の収入	1,104,863	1,234,966	916,409	939,753	1,340,462
資金収入調整勘定	-157,170	-162,697	-164,229	-188,190	-152,645
前年度繰越支払資金	510,584	1,132,455	918,470	818,428	719,778
収入の部合計	4,782,283	5,249,667	4,850,616	4,897,670	5,031,740

支出の部	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
人件費支出	1,728,513	1,863,241	1,904,684	1,988,178	1,863,706
教育研究経費支出	786,615	817,861	825,498	846,368	845,799
管理経費支出	297,659	283,895	299,930	323,424	310,348
借入金等利息支出	5,701	5,249	4,788	4,313	4,067
借入金等返済支出	98,220	98,220	98,220	95,720	100,720
施設関係支出	85,109	144,612	176,948	12,480	22,269
設備関係支出	42,677	89,237	45,994	102,827	80,082
資産運用支出	112,990	511,080	164,733	245,947	709,118
その他の支出	533,523	574,155	545,036	640,311	566,488
資金支出調整勘定	-41,179	-56,353	-33,643	-81,676	-83,927
翌年度繰越支払資金	1,132,455	918,470	818,428	719,778	613,072
支出の部合計	4,782,283	5,249,667	4,850,616	4,897,670	5,031,740

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,641,403	2,760,660	2,860,597	2,970,321	2,911,859
教育活動資金支出計	2,812,786	2,964,997	3,030,112	3,157,970	3,019,853
差引	-171,383	-204,337	-169,515	-187,649	-107,994
調整勘定等	45,983	-22,934	-12,899	20,096	2,785
教育活動資金収支差額	-125,400	-227,271	-182,414	-167,553	-105,209
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	141,343	245,109	255,723	112,147	313,484
施設整備等活動資金支出計	227,786	333,849	273,177	214,797	349,456
差引	-86,443	-88,740	-17,454	-102,650	-35,971
調整勘定等	-35,060	28,871	0	1,099	51,438
施設整備等活動資金収支差額	-121,503	-59,869	-17,454	-101,551	15,466
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	-246,903	-287,140	-199,868	-269,104	-89,742
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,471,133	1,119,011	806,704	1,023,360	1,063,924
その他の活動資金支出計	601,933	1,046,282	706,878	852,907	1,080,887
差引	869,200	72,729	99,826	170,453	-16,964
調整勘定等	-426	426	0	0	0
その他の活動資金収支差額	868,774	73,155	99,826	170,453	-16,964
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	621,871	-213,985	-100,042	-98,651	-106,706
前年度繰越支払資金	510,584	1,132,455	918,470	818,428	719,778
翌年度繰越支払資金	1,132,455	918,470	818,428	719,778	613,072

ウ) 財務比率の経年比較

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
教育活動資金	教育活動資金収支差額				
収支差額比率	-4.7	-8.2	-6.4	-5.6	-3.6
	教育活動資金収入計				

教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率。

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

	科目	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,150,453	2,140,928	2,173,833	2,228,416	2,256,759
	手数料	16,205	17,763	18,374	16,929	15,441
	寄付金	110	1,666	0	50,929	630
	経常費等補助金	194,078	243,312	299,859	290,484	280,930
	付随事業収入	111,234	140,642	165,522	169,359	170,017
	雑収入	169,323	218,015	203,008	264,567	188,113
	教育活動収入計	2,641,403	2,762,326	2,860,596	3,020,684	2,911,889
	事業活動支出の部					
	人件費	1,668,317	1,794,949	1,877,479	1,894,774	1,855,408
	教育研究経費	1,095,964	1,128,192	1,143,866	1,168,749	1,177,159
	管理経費	334,801	319,385	336,028	359,541	340,062
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	3,099,082	3,242,526	3,357,374	3,423,064	3,372,630
	教育活動収支差額	-457,679	-480,200	-496,777	-402,380	-460,740
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	91,696	83,904	104,089	110,651	129,680
	その他の教育活動外収入	1,686	0	0	0	0
	教育活動外収入計	93,381	83,904	104,089	110,651	129,680
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	5,701	5,249	4,788	4,313	4,067
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	5,701	5,249	4,788	4,313	4,067
	教育活動外収支差額	87,680	78,655	99,301	106,338	125,612
	経常収支差額	-369,999	-401,545	-397,476	-296,042	-335,128
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	60,229	4,657	5,194	63,350	238,295
	その他の特別収入	34,254	10,894	3,016	8,660	3,320
	特別収入計	94,483	15,551	8,210	72,010	241,616
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	80,694	27,745	114,066	622	39,943
	その他の特別支出	427	0	0	57	285
	特別支出計	81,121	27,745	114,066	679	40,228
	特別収支差額	13,361	-12,194	-105,856	71,331	201,388
	基本金組入前当年度収支差額	-356,638	-413,739	-503,333	-224,711	-133,740
	基本金組入額合計	0	-122,897	-17,112	-49,023	-8,867

（２）経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

資金収入の合計は 5,031,740 千円で、主な科目の内訳は、学生生徒等納付金収入 2,256,759 千円、補助金収入 280,930 千円、付随事業・収益事業収入 170,017 千円、前受金収入 80,420 千円である。資金支出の合計は 5,031,740 千円で、主な科目の内訳は、人件費支出 1,863,706 千円、教育研究経費支出 845,799 千円、管理経費支出 310,348 千円、資産運用支出 709,118 千円である。2024 年度の翌年度繰越支払資金は 613,072 千円となり、前年度繰越支払資金より 106,706 千円減少した。

教育活動収入計は本業である教育活動に係る収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の合計で 2,911,889 千円であり、学生生徒等納付金比率は 74.2 パーセントとなる。教育活動支出計は人件費（退職給与引当金繰入額を含む）、教育研究経費（減価償却額を含む）、管理経費（減価償却額を含む）等の合計で、3,372,630 千円であり、人件費比率は 61.0 パーセントとなる。教育活動支出計が教育活動収入計を上回った結果、教育活動収支差額が 460,740 千円の支出超過、教育活動外収支差額は 125,612 千円の収入超過、経常収支差額は 335,128 千円の支出超過となった。特別収支差額は 201,388 千円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 133,740 千円の支出超過となった。基本金組入額は 8,867 千円となり、前年度までの支出超過累積額 5,452,198 千円を差し引きし、翌年度繰越収支差額は 5,594,805 千円の支出超過となった。

貸借対照表上の 2025 年 3 月 31 日における財政状態は、資産 14,556 百万円、負債 2,013 百万円となっている。

（詳細については 2024 年度決算説明をご参照ください。）

▼2024年度 法人の動き

日付	内容	場所
＜A. 教育・研究事業＞		
2024年4月1日	新入生保護者対象キャリア支援ガイダンス	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年4月2日	学生定期健康診断(4/2、4/3、4/4)	
2024年4月3日	教員採用試験説明会【豊能地区】	キャリア支援センター
2024年4月5日	音楽幼稚園 第57回入園式	音楽幼稚園
2024年4月8日	神戸市・堺市 消防音楽隊採用説明会	キャリア支援センター
2024年4月9日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
2024年4月10日	教員採用試験説明会【大阪市】	キャリア支援センター
2024年4月10日	徳平佳久氏 特別講義 ～音響照明映像業界のこれから～	ミレニアムホール
2024年4月12日	第43回(春期)インターンシップ振返り会	B102教室
2024年4月13日	ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団無料体験会	第一キャンパス F号館2階 F215
2024年4月15日	アルヌルフ・フォン・アルニム客員教授 特別講義[他 4/16]	ミレニアムホール
2024年4月16日	カワイ音楽教室 講師採用説明会	A304教室
2024年4月17日	名刺講座 [他 4/22、以降も開催予定あり]	H322教室
2024年4月17日	卒業後の進路を考えるセミナー ～自衛隊音楽隊編～	O103教室
2024年4月22日	教員採用試験説明会【愛媛県】	キャリア支援センター
2024年4月22日	教授会①	会議室
2024年4月24日	大学3年生/短大1年生対象 卒業後の為の進路ガイダンス①	F215教室
2024年4月26日	大学3年生/短大1年生対象 卒業後の為の進路ガイダンス②	F434教室
2024年5月8日	自衛隊音楽隊採用説明会	O103教室
2024年5月8日	2024年度第1回ミレニアムピアノコンサート【他 第2回6/11、第3回7/18、第4回9/19、第5回10/2、第6回11/1、第7回12/20】	ミレニアムホール
2024年5月10日	MIRAIセミナー(就職対策)①「就活スタートアップ」(マイナビ主催)	B102教室
2024年5月11日	常翔学園・大阪音楽大学 連携協定記念プロジェクト[常翔ロビーコンサート]【他 6/15、7/6、8/3、9/14、10/12、11/9、12/21、2025/1/11、2/15】	OIT梅田タワー1階
2024年5月14日	英会話講座 [他 5/21、28、6/4、11、18、25、7/2、9、16] (計10回)	B101教室
2024年5月17日	コナミグループ 採用説明会(サウンドクリエイター)	オンライン
2024年5月20日	MIRAIセミナー(就職対策)②「1日完結就活講座」(リクナビ主催)	A305教室
2024年5月21日	第79回ミレニアム・スチューデント・コンサート 第1夜【他 第2夜5/22、第3夜5/23、第80回第1夜6/12、第2夜6/13、第3夜6/14】	ミレニアムホール
2024年5月27日	障がいやコミュニケーションで悩む方のための“キャリアプロデュース” ①	B205教室
2024年5月27日	教授会②	会議室
2024年5月28日	パソナ音楽島 採用説明会	キャリア支援センター
2024年6月2日	吹奏楽フェスティバル2024	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年6月5日	MIRAIセミナー(就職対策)③「1日完結就活講座」(あさがく主催)	B206教室
2024年6月6日	ヤマハ音楽能力検定 ピアノ演奏グレード5級取得準備講座 [他 6/13、20、27] (計4回)	B205教室
2024年6月19日	MIRAIセミナー(就職対策)④「SPI性格検査受験会」(リクナビ主催)	F212教室
2024年6月22日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第64回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年6月24日	大阪府警察音楽隊 採用説明会	O103教室
2024年6月24日	教授会③	会議室

▼2024年度 法人の動き

日付	内容	場所
2024年6月25日	フレイ・バラージュ氏 特別講義	ミレニアムホール
2024年6月27日	福川 伸陽氏 ホルン特別講義	O号館103教室
2024年6月28日	MIRAIセミナー(就職対策)⑤「1日完結就活講座」(マイナビ主催)	B102教室
2024年6月28日	ボストン音楽院教授 マックス・レビンソン氏 特別講義	ミレニアムホール
2024年7月6日	大阪音楽大学吹奏楽団 サマー・コンサート2024	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年7月6日	上村昇客員教授 チェロ特別講義[他 7/13]	O号館103教室
2024年7月12日	And Vision主催 音楽留学セミナー [他 2/14] (計2回)	オンライン
2024年7月16日	教員採用試験 人物試験対策ガイダンス(東京アカデミー)	B103教室
2024年7月19日	大阪音楽大学管弦楽団 サマー・コンサート2024	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年7月22日	教授会④	会議室
2024年7月25日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	A号館414教室
2024年8月4日	ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団無料体験会&巡り合いコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年8月6日	株式会社コロブラ(サウンド職)企業・採用説明会	キャリア支援センター
2024年8月18日	打楽器バイキング	第二キャンパス O号館 O101、O103、O104、O201、O202、ミレニアムホール
2024年8月26日	前期実技試験 兼 実技認定審査	第一キャンパス F号館4階 F434、第二キャンパス K号館5階 K505
2024年9月12日	株式会社ジーアングル 企業・採用説明会	オンライン
2024年9月12日	侘美秀俊特任准教授 Finaleスペシャルセミナー[他 9/13]	A号館301教室
2024年9月13日	カワイピアノグレード6級 学内認定特別講習	F109教室
2024年9月18日	株式会社ノイジークローク 企業・採用説明会	K420教室
2024年9月19日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級トライアル講座	B205教室
2024年9月23日	教授会⑤	会議室
2024年9月25日	株式会社ベアーズ 企業・採用説明会	O103教室
2024年9月26日	MIRAIセミナー(就職対策)⑥「就活スタートアップ」(リクナビ主催)	B206教室
2024年10月3日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級取得準備講座 [他 10/10、17、24、11/7、14、21] (計7回)	B205教室
2024年10月8日	株式会社アニメイト 企業・採用説明会	オンライン
2024年10月11日	MIRAIセミナー(就職対策)⑦「プロが教える就活のポイントセミナー」(あさがく主催)	A305教室
2024年10月13日	音楽幼稚園 第58回運動会	音楽幼稚園
2024年10月17日	株式会社ポニーキャニオン(エリアアライアンス部) 説明会	D101教室
2024年10月18日	第44回(春期)インターンシップ説明会	F215教室
2024年10月21日	株式会社シグマコミュニケーションズ 企業・採用説明会	キャリア支援センター
2024年10月21日	第81回ミレニアム・スチューデント・コンサート 第1夜【地 第2夜10/22、第3夜10/23、第82回第1夜11/11、第2夜11/12、第3夜11/13】	ミレニアムホール
2024年10月21日	教授会⑥	会議室
2024年10月22日	音楽教室起業セミナー ～教えるを仕事にするために～	B206教室
2024年10月26日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象説明会	ミレニアムホール
2024年10月31日	MIRAIセミナー(就職対策)⑧「後期就活スタートアップセミナー」(マイナビ主催)	B206教室
2024年11月3日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第65回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年11月5日	講師登録説明会【堺市】	キャリア支援センター

▼2024年度 法人の動き

日付	内容	場所
2024年11月6日	株式会社レバレッジズ 企業・採用説明会(3音楽大学合同)	オンライン
2024年11月8日	第36回ザ・コンチェルト・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年11月12日	株式会社ブランニングエッグ エキストラ出演者&企業・採用説明会	B206教室
2024年11月13日	任天堂株式会社(サウンド職) 企業・採用説明会	B101教室
2024年11月18日	教員採用試験説明会【兵庫県】	オンライン
2024年11月19日	障がいやコミュニケーションで悩む方のための“キャリアプロデュース②～ジョブスキルチェック編～”	B206教室
2024年11月19日	株式会社博報堂プロダクツ 企業・採用説明会	オンライン
2024年11月19日	大阪音楽大学大学院 定期演奏会2024	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年11月21日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」事前ガイダンス	B206教室
2024年11月22日	第47回邦楽演奏会	ミレニアムホール
2024年11月25日	MIRAIセミナー(就職対策)⑨「筆記試験対策+グループ面接体験会」(あさがく主催)	F212、F215教室
2024年11月25日	教授会⑦	会議室
2024年11月26日	教員採用試験説明会【大阪市】	キャリア支援センター
2024年11月26日	三木楽器講師等 採用説明会	B206教室
2024年12月1日	大阪音楽大学 第67回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
2024年12月2日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
2024年12月2日	株式会社東京舞台照明大阪 企業・採用説明会	B206教室
2024年12月3日	よしもとブロードテック株式会社説明会	B206教室
2024年12月4日	大学院2年修士演奏会(歌曲)【他 オペラ12/12、管弦打2025/1/17、ピアノ1/21、作曲2/13】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年12月5日	教員採用試験説明会【神戸市】	キャリア支援センター
2024年12月5日	株式会社カプコン説明会	B206教室
2024年12月7日	音楽幼稚園 作品展「キッズミュージアム」	音楽幼稚園
2024年12月9日	株式会社ホットスケープ 企業・採用説明会	B206教室
2024年12月14日	上村昇客員教授 チェロ特別講義	O号館103教室
2024年12月16日	株式会社TBSアクト 企業・採用説明会	B206教室
2024年12月16日	教授会⑧	会議室
2024年12月18日	株式会社キョードーエンターテインメント 企業・採用説明会	B101教室
2024年12月20日	ヤマハ音楽教室講師採用説明会《2026年度募集》	A305教室
2024年12月24日	第4回 NEXT DESIGN 大阪音楽大学短期大学部 作曲デザイン・コース・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年12月26日	パソナ音楽島 採用説明会	オンライン
2025年1月8日	神戸市職員(デザイン・クリエイティブ枠)採用説明会)	D101教室
2025年1月8日	神戸市学生スクールサポーター説明会	キャリア支援センター
2025年1月11日	第57回合唱発表会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年1月11日	上村昇客員教授 チェロ特別講義	O号館103教室
2025年1月12日	大阪音楽大学 第33回電子オルガン・コンサート	ミレニアムホール
2025年1月16日	株式会社セリオ 企業・採用説明会	B206教室
2025年1月16日	トビリシ音楽大学学長 ジョージ・ヴァチナーゼ教授 特別講義	F号館510教室

▼2024年度 法人の動き

日付	内容	場所
2025年1月17日	株式会社コロブラ 企業・採用説明会	A305教室
2025年1月27日	教授会⑨	会議室
2025年1月30日	2024年度ピアノ演奏家特別コース修了演奏会①【他 ②1/31】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年2月5日	株式会社ワタナベエンターテインメント 企業・採用説明会	オンライン
2025年2月8日	第36回大阪音楽大学学生オペラ「ドン・ジョヴァンニ」第1日【他 第2日2/9】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年2月10日	MIRAIセミナー(就職対策)⑩「就活直前総まとめ」(リクナビ主催)	B102教室
2025年2月12日	就活メイク講座	F215教室
2025年2月12日	証明写真撮影会	ばうぜ特別室
2025年2月13日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート	常翔ホール
2025年2月14日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	A号館414教室
2025年2月15日	2023年度大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ポピュラー・ミュージック・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年2月17日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」①	B101教室
2025年2月18日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」②	B101教室
2025年2月18日	MIRAIセミナー(就職対策)⑪「模擬面接講座(集団面接)」(あさがく主催)	B102教室
2025年2月18日	大学院1年修士リサイタル 第一夜【他 第二夜2/19、第三夜2/20、第四夜2/21、第五夜2/25、第六夜2/26】	ミレニアムホール
2025年2月19日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」③	B101教室
2025年2月19日	株式会社ytv Nextry 企業・採用説明会	オンライン
2025年2月20日	MIRAIセミナー(就職対策)⑫「模擬面接講座(グループディスカッション)」(マイナビ主催)	B102教室
2025年2月22日	音楽幼稚園 発表会「たのしみまショー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年2月24日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第22回 ザ・ストリング・コンサート	ミレニアムホール
2025年2月25日	教授会⑩	会議室
2025年2月26日	キャリアプロデュース③～就労移行支援事業所ってなに？～	B102教室
2025年3月1日	大阪音楽大学 第56回吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
2025年3月8日	2024年度 大阪音楽大学短期大学部 ミュージカル・コースDAIONミュージカル 第14回公演①②【他 ③④3/9、⑤3/10】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年3月10日	株式会社エクタスポート 企業・採用説明会	オンライン
2025年3月12日	2024年度 大阪音楽大学短期大学部 卒業演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年3月12日	2024年度大阪音楽大学 卒業演奏会 第1日【他 第2日3/13、第3日3/14】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年3月15日	キッズジュニアコース ソルフェージュ無料体験会	第一キャンパス
2025年3月19日	音楽幼稚園 第58回卒園式	音楽幼稚園
2025年3月20日	2024年度 大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジュニア吹奏楽団演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年3月22日	進学コース 音楽基礎科目無料体験会	第一キャンパス
2025年3月24日	神戸市教員採用試験 説明会	キャリア支援センター
2025年3月24日	教授会⑪	会議室
2025年3月28日	後期実技試験・修了コンサート	ミレニアムホール
2025年3月31日	豊能地区教員採用試験 説明会	キャリア支援センター

▼2024年度 法人の動き

日付	内容	場所
＜B. 社会連携事業＞		
2024年4月7日	オルガンコンサート	第二キャンパス K号館3階 K301
2024年6月21日	豊中市「サウンドスクール事業」豊中市立箕輪小学校【他 6月～3月まで、こども園12件、小学校69件、中学校15件、義務教育高校5件】	豊中市内こども園、小学校・中学校
2024年9月7日	進学実技適性テスト	大阪音楽大学内
2024年9月8日	進学実技適性テスト	大阪音楽大学内
2024年9月9日	大学3年次編入推薦・短大専攻科特別入学者選抜	大阪音楽大学内
2024年9月19日	付属音楽幼稚園出張演奏	大阪音楽大学付属音楽幼稚園
2024年9月28日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学内
2024年9月29日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学内
2024年9月29日	第12回 豊中こども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年10月13日	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅」【他 11/13】	豊中市立中央公民館
2024年10月14日	北摂文化大学豊中校通信2024 出張演奏	豊中市立文化芸術センター大ホール
2024年10月19日	大学・短大 総合型選抜	大阪音楽大学内
2024年10月20日	大学・短大 総合型選抜	大阪音楽大学内
2024年10月27日	第9回 豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2024年11月15日	けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」【他 11/22、11/29、12/6】	高槻市生涯学習センター
2024年11月27日	大学・短大 学校推薦型選抜[在学生立入禁止]	大阪音楽大学内
2024年11月28日	大学・短大 学校推薦型選抜[在学生立入禁止]	大阪音楽大学内
2024年12月28日	オペラハウスで歌おう 修了コンサート	第一キャンパス、ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年2月4日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学内
2025年2月5日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学内
2025年2月6日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学内
2025年2月7日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学内
2025年2月12日	学3編入一般入学者選抜	大阪音楽大学内
2025年2月13日	学3編入一般・短専・大専入学者選抜	大阪音楽大学内
2025年2月22日	器楽合同発表会①	ミレニアムホール
2025年2月28日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学内
2025年3月1日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学内
2025年3月2日	声楽合同発表会①	ミレニアムホール
2025年3月9日	声楽合同発表会②	ミレニアムホール
2025年3月15日	声楽合同発表会③	ミレニアムホール
2025年3月16日	第4回ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団&ザ・カレッジ・オペラハウス ジュニアオーケストラ定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年3月16日	ミュージックカーニバル①	ミレニアムホール
2025年3月17日	大学・短大 後期総合型選抜[在学生立入禁止]	大阪音楽大学内
2025年3月20日	ミュージックカーニバル②	ミレニアムホール
2025年3月29日	器楽合同発表会②	ミレニアムホール
2025年3月30日	ピアノ・アンサンブル コンサート	ミレニアムホール

▼2024年度 法人の動き

日付		内容	場所
		<C.法人組織運営事業>	
2024年4月1日	第1回理事会		会議室
2024年4月19日	第1回評議員会		会議室
2024年5月27日	第2回理事会		会議室
2024年5月28日	第3回理事会		応接室
2024年5月28日	第2回評議員会		会議室
2024年9月5日	第4回理事会		応接室
2024年11月18日	第3回評議員会		会議室
2024年11月19日	第5回理事会		会議室
2025年3月21日	第6回理事会		会議室
2025年3月21日	第4回評議員会		会議室